

ALBIREX RACING TEAM レースレポート

2017年 全日本 F3 選手権 第10戦 鈴鹿サーキット

夏の鈴鹿戦、第1ラウンドは2台揃って完走

シーズンの折り返し地点ともいえる全日本 F3 選手権の第5大会が、鈴鹿サーキットで開催されました。2回目となる鈴鹿サーキットでの大会ですが、今回はブランパン GT シリーズ・アジアとの併催イベント。同シリーズでは全日本 F3 とは異なるメーカーのタイヤが使用されるため、コース表面に付着するタイヤラバーの特性も違い、前回の鈴鹿戦とはコースコンディションもかなり異なるものになります。そんな中でアルビレックスレーシングチームの2台は、マシンのセットアップやドライビングをさらに高めるため、金曜日から練習走行を重ねていきました。

予選は、30分の1セッションのみと、4月の鈴鹿大会と同じ方式が採用されました。赤旗でセッションは2回中断され、最後に3分30秒の延長。ここで各車が続々とタイム更新を果たしますが、カルネイロ選手も最終ラップに自己ベストタイムを更新して10番グリッドを獲得。長谷川選手も終盤に向けてペースを上げていましたが、計測8周目のスプーンカーブでコースアウト。直前のラップがベストタイムとなり、F3-Nの2番グリッドに着くことになりました。

決勝レースは24日(土)の夕方にスタートが切られました。カルネイロ選手は、路面が汚れていてスタートの蹴りだしで不利とされるイン側のスタートポジションからまずまずの動き出しを見せ、オープニングラップで1つ順位を上げましたが、その後はペースアップが叶わず、9位とシングルフィニッシュを果たしたものの、苦しいレースとなりました。

長谷川選手は、スタートに失敗して順位を下げた後も、コースコンディションが予想していた状況とは違っていたことと思うようにペースが上げられず、F3-N クラス4位フィニッシュとなりました。

#21 ブルーノ・カルネイロ (AlbirexRT-WILSON: ダラーラ F315/ Mercedes-Benz 414)

予選 10位 / 決勝 9位

「予選では2回も赤旗でセッションが中断され、フラストレーションがたまりそうでしたが、なんとか気持ちを保つように心がけました。イン側グリッドは非常にダスティだったのでいいスタートは切れず、ペースもあまり良くなくて、苦しいレースになりました。明日のレースはコンディションも変わるので、気持ちを切り替えて臨みたいと思います」

#22 長谷川綾哉 (Alb 新潟第1ホテル Suger: ダラーラ F308/トヨタ・トムス 3S-GE)

予選 2位 / 決勝 4位

「レースに向けてフィジカル・メンタルともに準備不足でした。スタートも集中できずに失敗してしまい、路面状況も自分の読みと違って、その状況に合わせきれずにペースも良くありませんでした。明日まであまり時間はありませんが今日よりもいい内容でレースができるよう、できるだけ準備をしたいと思います」

ALBIREX RACING TEAM レースレポート

2017年 全日本 F3 選手権 第 11 戦 鈴鹿サーキット

長谷川選手、予選順位をキープし 3 位表彰台

全日本 F3 選手権・第 11 戦で、アルビレックスレーシングチームの長谷川綾哉選手が、F3-N で 3 位表彰台を獲得しました。

第 11 戦のスターティンググリッドは、前日に行われていた予選セッションのセカンドベストタイムによって決めるのが今回の競技規則。カルネイロ選手は 9 番手、長谷川選手は F3-N の 3 番手からのスタートです。

前日の夜半から鈴鹿では雨が降り出し、25 日(日)の朝には雨はやんでいたものの、第 11 戦の決勝レースは濡れた路面と乾いた路面の混じった、非常に難しいコンディションで行われました。カルネイロ選手は比較的路面の乾いたアウト側からスタートし、オープニングラップでポイント獲得圏内の 6 位に大きくポジションアップ。その後、7 位・8 位のマシンと中盤まで 3 台による接近戦となりました。9 周目まではなんとかポジションを死守していたカルネイロ選手ですが、次の 10 周目に入った 1 コーナーで後続の逆転を許し、最終的には 8 位でフィニッシュしました。

長谷川選手もアウト側からのスタートでしたが、ホイールスピンを起こして加速が鈍りポジションダウン。しかし、オープニングラップで 1 台がコースアウトして 3 番手に順位を戻しました。後続とは離れていたため前の 2 台を追いかけることに集中しましたが、追いつくことは叶わずフィニッシュ。ベテラン勢とのペースの違いを目の当たりにするレースになりましたが、前日からの課題をいくつかの面でクリアし、鈴鹿大会を終えることになりました。

#21 ブルーノ・カルネイロ (AlbirexRT-WILSON: ダラーラ F315/ Mercedes-Benz 414)

予選 9 位 / 決勝 8 位

「レース前半は後ろのマシンと接近戦が続き、緊張しましたが集中してドライブができたと思います。徐々にコースが乾いてきたところでペースを上げられず、逆転されてしまいました。次のレースは富士です。前回の富士大会は非常にポジティブな形で進められたので、今回もいい結果が出せると信じています」

#22 長谷川綾哉 (Alb 新潟第 1 ホテル Suger: ダラーラ F308/トヨタ・トムス 3S-GE)

予選 3 位 / 決勝 3 位

「昨日よりはすべてが改善されたと思いますが、なかなか自分のベストな状態を維持できませんでした。何とか表彰台には上がれましたが、前の 2 台には離される一方の展開で、悔しいレースにもなりました。富士では第 7 戦で勝っていていいイメージがあるので、次戦はそのイメージをもっと高めて臨みたいと思います」

中村寿和チーム代表

「カルネイロ選手は非常にまじめで努力型のドライバーで、すべてを自分で抱えてしまうところがあります。彼をチーム側からもっとサポートできるよう、チーム体制をさらに整えているところです。今回はミーティングの数を増やしてコミュニケーションをさらに取れるようにしましたが、富士ではさらにいい状況で臨めると思います。

長谷川選手に関しては、今回は2戦とも優勝を狙っていましたが、満足のいくレースとはなりません。メンタル面・体づくりといった点でもいろいろなデータをとりましたので、もう一度、レースに向けた準備という段階から仕切り直したいと思います。

次戦の富士は、前回2台ともいいレースができていますので、そのいいイメージをもって臨みます」